

**若者の定着・回帰に向けた市町施策形成支援業務
公募型プロポーザル第3回選定委員会（第2次審査（最終審査））議事要旨**

開催日	令和7年11月4日	
出席委員	山脇 千穂（広島県総務局 経営企画チーム 若者減少対策担当監） 梶島 洋介（広島県総務局 施策形成支援チーム 担当課長） 三島 史雄（広島県地域政策局 地域振興担当部長） 安達 貴光（広島県地域政策局 市町行財政課 市町連携推進担当課長） 兼田 洋一（広島県地域政策局 地域力創造課長）	
議題	若者の定着・回帰に向けた市町施策形成支援業務委託事業者選定に係る第2次審査	
提案者	三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社大阪	A
	株式会社野村総合研究所	B
	ひろぎんエリアデザイン株式会社	E
	株式会社エブリプラン	G
	株式会社価値総合研究所	H
担当部署	地域政策局市町行財政課市町連携推進担当	
開催方法	① 参集（オンライン） 2 持ち回り	
議事要旨	提出された企画提案書をもとに、提案者がプレゼンテーションを行い、選定委員会において審査の上、最優秀提案者として株式会社野村総合研究所を選定した。 各委員の主な評価については、次のとおりである。	

【各委員の主な評価（第2次審査（最終審査））】

A	○市町特性の把握について、約200自治体という幅広いデータ収集の中から指標整理を行うため、指標の信頼性が期待できる。また、市町特性データベースの作成について、「データ更新の手引き」は、継続的なデータ蓄積の内製化に繋がるものとして工夫が見られる。 ○仮説構築の支援について、市町職員の主体性を引き出す支援が、スキル強化に繋がるものとして期待が持てる。 ○事業アイデアの創出に当たって、3市の合同実施の機会をはじめ、職員の主体性を引き出す具体的な手法の導入など工夫がみられる。 ○市町による課題解決の仮説構築支援については、伴走支援が重要と考えるが、その体制が薄いと感じられる。
B	○本提案は、本業務の趣旨を十分に理解した提案であること、豊富な経験や知見に基づいた信頼性の高い提案であること、本業務に対する高い意欲も感じられることなどから、総合的に評価できる。

	○過去の豊富な業務経験を踏まえた具体的な提案であり、今後の市町による自走も踏まえた提案となっている。また、先行インタビューなど、業務の方向性を踏まえた具体的な提案である。 ○これまでの業務実績・経験を踏まえて、独自の提案を含めて、本業務の目的を十分に理解した提案となっている。 ○日常的なアドバイスが可能との説明を、心強いと感じる。
E	○提案者は、地域金融機関グループの構成社であり、深い地域理解が期待できる。 ○本提案は、本業務の趣旨に沿っていること、実効性の高い施策構築に資する独自提案がなされていること、本業務に対する高い意欲も感じられることなどから、評価できる。 ○調査分析業務において、全国に先駆けて、また、より深掘りするための独自視点の工夫など、チャレンジングな提案は評価したい。 ○事業構築に向けて、地元の人を交えて議論することとなっている点が評価できる。 ○地域計量マクロモデル等の独自提案はあるものの、データを活用した施策検討の道筋が見えづらかった。
G	○若者の転出入要因把握におけるインタビュー逐語録のコーディング分析について、深掘りした把握・分析が期待できる。 ○島根県での業務経験等から、一定の知見を有しているものと考えられるが、ターゲットについては、その経験等から女性重視の視点が強いと感じた。 ○WS 運営の経験は豊富であり、具体性を持った提案である。 ○「性別構造」を大きな着眼点として、独自で構築したアプローチにより、特性や要因の把握・分析を設計している点は評価できる。 ○課題の核心を「女性」と設定していることについては、十分な説明が必要と感じる。
H	○市町特性把握の指標設定は、県の過年度調査や国の調査研究等から検討されており、信頼性に期待が持てる。また、因果モデルを用いた指標の因果検討について、精緻な考察が窺われる。 ○地元 に事業所を有する企業との連携もあり、きめ細かい対応が期待できる。 ○内閣官房の発注による地域経済循環分析用データを用いた分析等の実施や、分析結果に係る経済産業局、自治体との議論の実績は、評価できる。 ○データ分析、ロジック構築など、銀行系コンサルとしての強みのある提案である。一方で、虫の目的な視点が弱いように見受けられることから、若者の価値観把握が弱いと感じる。 ○転出入の要因把握・分析の手法は具体性が乏しいが、多様な主体の参画を前提とした仮説構築手法を講じている点を評価したい。